

東洋史専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
東洋古代中世史特論Ⅰ	六朝時代の諸問題	2	川合 安	前期 金曜日 2 講時	東洋古代中世史特論Ⅰ
東洋古代中世史特論Ⅱ	隋唐時代の諸問題	2	川合 安	後期 金曜日 2 講時	東洋古代中世史特論Ⅱ
東洋古代中世史特論Ⅲ	『通典』礼制議論講釈	2	下倉 涉	後期 水曜日 2 講時	東洋古代中世史特論Ⅲ
東洋近世史特論Ⅰ	中国近世史の諸問題Ⅰ	2	大野 晃嗣	前期 火曜日 5 講時	東洋近世史特論Ⅰ
東洋近世史特論Ⅱ	中国近世史の諸問題Ⅱ	2	大野 晃嗣	後期 火曜日 5 講時	東洋近世史特論Ⅱ
東洋近世史特論Ⅲ	清朝の外藩モンゴル統治の諸問題	2	岡 洋樹	前期 水曜日 4 講時	東洋近世史特論Ⅲ
東洋近世史特論Ⅳ	内陸アジア史の諸問題	2	中村 篤志	後期 木曜日 2 講時	東洋近世史特論Ⅳ
東洋史学研究演習Ⅰ	『宋書』礼志の研究Ⅰ	2	川合 安	前期 金曜日 5 講時	東洋古代中世史研究演習Ⅰ
東洋史学研究演習Ⅱ	『宋書』礼志の研究Ⅱ	2	川合 安	後期 金曜日 5 講時	東洋古代中世史研究演習Ⅱ
東洋史学研究演習Ⅲ	明清官僚制度研究Ⅰ	2	大野 晃嗣	前期 水曜日 5 講時	東洋近世史研究演習Ⅰ
東洋史学研究演習Ⅳ	明清官僚制度研究Ⅱ	2	大野 晃嗣	後期 水曜日 5 講時	東洋近世史研究演習Ⅱ

科目名：東洋古代中世史特論 I / Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM15204 科目ナンバリング：LGH-HIS601J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史特論 I】

1. 授業題目：六朝時代の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Subjects of The Six Dynasties Time
3. 授業の目的と概要：中国の六朝時代（魏晉南北朝時代、220～589）は、秦漢古代帝国の崩壊をうけて、新たな国家秩序構築の模索が行われた時代であった。講義では、この時代につくられた政治・社会体制—いわゆる「貴族制」の構造や実態について分析し、当時を生きた人々の社会的活動や思想などの具体相を浮かび上がらせることを試みる。この混沌と模索の時代を生きた人々の営みについて、自分なりに考えつつ、中国史における六朝時代の意味について理解を深めることを目的とする。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the history of the Six Dynasties time (220-589) to help students understand the characteristics of the Six Dynasties in Chinese history.
5. 学習の到達目標：六朝時代の政治・社会体制の特質を理解し、興味をもった論点について、自分なりに調査して論じることができるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Six Dynasties time.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義形式で授業を行い、2 回目以降、毎回、課題を課す。
 - 1、ガイダンス、六朝時代の概略
 - 2、秦漢帝国の概要
 - 3、九品官人法と貴族制の成立
 - 4、東晋の貴族制
 - 5、孫恩・盧循の乱
 - 6、劉宋政権の成立
 - 7、南齊の政治
 - 8、北魏・孝文帝の改革
 - 9、梁の武帝の改革
 - 10、『梁書』と『南史』
 - 11、侯景の乱
 - 12、陳朝の成立
 - 13、東魏・北齊の政治
 - 14、西魏・北周の政治
 - 15、総括と展望
8. 成績評価方法：
2 回目以降の授業で毎回課す課題によって評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書：資料を配布
参考書：川勝義雄『魏晉南北朝』（講談社「学術文庫」2003 年）。
川本芳昭『中華の崩壊と拡大』（講談社「学術文庫」2020 年）。
ほかは、講義中に紹介する。
10. 授業時間外学習：課題の作成を行う。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM25202 科目ナンバリング：LGH-HIS602J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史特論Ⅱ】

1. 授業題目：隋唐時代の諸問題
2. Course Title (授業題目)：Subjects of Sui and Tang dynasties
3. 授業の目的と概要：隋唐時代は、六朝時代の政治的分裂を克服して統一を回復した時代であったが、なお、多くの矛盾をかかえていた。このような隋唐時代政治史の諸問題について考察し、理解を深める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course covers the political history of Sui and Tang dynasties (589-907) to help students understand the characteristics of the Sui and Tang dynasties in Chinese history.
5. 学習の到達目標：隋唐時代の政治史の諸問題について、その概略を理解し、特に関心をもった問題について、関連の研究論文等の調査を進め、考察できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students gain the perspective needed to review the common image of the Sui and Tang dynasties.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
講義形式で授業を行い、2回目以降、毎回、課題を課す。
 - 1、ガイダンス、隋唐時代の概略
 - 2、隋王朝の政治
 - 3、貞観の治
 - 4、唐と突厥
 - 5、唐と高句麗
 - 6、則天武后の時代
 - 7、玄宗の時代
 - 8、唐と渤海国
 - 9、安史の乱
 - 10、徳宗の時代
 - 11、憲宗の時代
 - 12、牛李の党争
 - 13、会昌の廢仏
 - 14、黄巢の乱
 - 15、総括
8. 成績評価方法：
2回目以降、毎回の授業で課す課題によって評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書：資料を配布する。
参考書：布目潮瀨・栗原益男『隋唐帝国』（講談社「学術文庫」、1997年）。
氣賀澤保規『絢爛たる世界帝国』（講談社「学術文庫」、2020年）。
その他、授業で紹介する。
10. 授業時間外学習：課題の作成を行う。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ／ Ancient and Medieval History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：後期 水曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：下倉 渉

コード：LM23205 科目ナンバリング：LGH-HIS603J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史特論Ⅲ】

1. 授業題目：『通典』礼制議論講釈
2. Course Title (授業題目)：Study of articles about Lizhi(礼制) recorded in "Tongdian(通典)"
3. 授業の目的と概要：杜佑の著した『通典』は食貨・選挙・職官・礼・楽・兵・刑・州郡・边防の9部門からなる。9つの部門の内、礼を扱った部分の巻数が最も多く、杜佑は本書200巻の半分100巻で歴代の礼制に関する記載を集成している。“礼典”と呼ばれるこの部門には、皇帝の即位儀礼などといった国家典礼の他、冠婚葬祭の如き人生儀礼に関する式次第・議論も採録されている。本講義で取り上げたいのは後者である。特に、知識人の間で交わされた議論について注目したい。そこでは経書の記載を根拠にしながらも、当時特有の儒家的な論法が展開されているケースもある。よって分析にあたっては、その論理展開を虚心に追いかけることが肝要であろう。所掲の議論を部分的に取り上げるのではなく、項目単位で通読して全体の論調を把握するように心がけなければならない。また、議論の中には、当時特有の習俗と覚しき記載も確認できる。こうした非「儒家」的な側面にも配慮する必要がある。授業では、一項目を単位として所掲の議論を如何に解釈すべきか、講義形式で論じる。礼制に関する記録を素材に社会的な考察を行うこと、つまり“礼社会史”とも称すべき手法を試みるのが、この授業の目的である。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：“Tongdian(通典)” written by Du You(杜佑) is composed of nine chapters titled “shihuo(食貨)” “xuanju(選挙)” “zhiguan(職官)” “li(礼)” “yue(楽)” “bing(兵)” “xing(刑)” “zhoujun(州郡)” “bianfang(边防)”. Of the nine chapters, the part related to li(礼) has the largest number of volumes, Du You(杜佑) has compiled the descriptions of successive li(礼) system in 100 volumes, which is half of the 200 volumes of this book. This section, called the “lidian(礼典),” contains national rituals such as the emperor’s coronation ritual, as well as ceremonies and articles related to life rituals such as ceremonial occasions. In this lecture, I would like to focus on the latter, especially the discussions of scholars in that direction. If you read some of their arguments, you will find that some of them were based on the description in the Confucian textbooks, but developed their arguments with a unique logic. In order to grasp the logic firmly, we should not take up a part of each discussion separately, but analyze the discussions on the same subject collectively and try to understand the whole tone. And, because scholars had also mentioned the unique social customs in the era in their claims, I would like to add the considerations in this lecture with respect to such article.
5. 学習の到達目標：1. 学生たちは『通典』という書籍の性格について理解を深める。
2. 後漢から隋唐時代にかけての儒学的な思考様式について理解を深める。
3. 同時代に行われていた社会的習俗について理解を深める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：1. Students learn about the nature of “Tongdian(通典)”.
2. Students learn about Confucian thinking on the “li(礼)” system between the later Han and Sui Tang eras.
3. Students learn about the customs that were practiced in society between the later Han and Sui Tang eras.
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
授業は講義方式で行う。
 1. ガイダンス
 2. 『通典』という書物について
 3. 礼制議論における統計上の傾向について
 4. 引用記事の出典について
 5. 嘉礼について①——巻59の議論——
 6. 嘉礼について②——巻60の議論——
 7. 吉礼について①——巻51の議論——
 8. 吉礼について②——巻52の議論——
 9. 凶礼について①——巻54の議論——
 10. 凶礼について②——巻55の議論——
 11. 凶礼について③——巻56の議論——
 12. 凶礼について④——巻57の議論——
 13. 西晋泰始礼と『通典』礼制議論との関係について
 14. 唐開元礼と『通典』礼制議論との関係について
 15. まとめと試験
8. 成績評価方法：
筆記試験によって評価する。
9. 教科書および参考書：
教科書はなし。
講義に使用する資料は授業ごとに配付する。
参考書についてはその都度紹介する。
10. 授業時間外学習：『儀礼』や『礼記』といった儒家の経書について事前に学習し、かつその原文に親しんでおくことが望ま

しい。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅰ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 火曜日 5 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM12502 科目ナンバリング：LGH-HIS604J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅰ】

1. 授業題目：中国近世史の諸問題Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：近世中国における社会と官僚制度・教育制度などについての基礎的知識を身につけると同時に、英語文献の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：欧米の中国史研究の読解を通して、その研究の視点を学ぶとともに、近世中国王朝の官僚機構と教育システムについて基本的な知識を身につける。なお、英語文献を日本語訳をしながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Reading of Western Chinese history research, students learn its viewpoint and get basic knowledge about the bureaucracy and education system of the early modern Chinese dynasty. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目では Classroom を使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは【 】です。Classroom にアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 中国近世史の諸問題Ⅰー (1) 及び行政制度の基礎知識
3. 中国近世史の諸問題Ⅰー (2) 及び行政制度の基礎知識
4. 中国近世史の諸問題Ⅰー (3) 及び社会構造の基礎知識
5. 中国近世史の諸問題Ⅰー (4) 及び社会構造の基礎知識
6. 中国近世史の諸問題Ⅰー (5) 及び法律制度の基礎知識
7. 中国近世史の諸問題Ⅰー (6) 及び行政区画の基礎知識
8. 中国近世史の諸問題Ⅰー (7) 及び行政区画の基礎知識
9. 中国近世史の諸問題Ⅰー (8) 及び科举制度の基礎知識
10. 中国近世史の諸問題Ⅰー (9) 及び科举制度の基礎知識
11. 中国近世史の諸問題Ⅰー (10) 及び人事制度の基礎知識
12. 中国近世史の諸問題Ⅰー (11) 及び人事制度の基礎知識
13. 中国近世史の諸問題Ⅰー (12) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (1)
14. 中国近世史の諸問題Ⅰー (13) 及び科举と近世中国社会に関する討論 (2)
15. 中国近世史の諸問題Ⅰー (14) 及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅱ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM22502 科目ナンバリング：LGH-HIS605J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅱ】

1. 授業題目：中国近世史の諸問題Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Issues of the Early Modern China

3. 授業の目的と概要：近世中国における社会と官僚制度、教育制度についての基礎的知識を身につけると同時に、英語で書かれた中国史の研究論文の読解力を養う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research.

5. 学習の到達目標：英語で書かれた中国史に関する学術論文を読みながら、近世中国の社会と官僚制度。教育システムについて基本的な知識を学ぶ。なお、英語文献を日本語訳しながら授業を進めるため、事前の翻訳作業と提出が必要となるので注意すること。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this lesson is to learn basic knowledge about society and the bureaucracy and education system in early modern China and to develop the ability to read English papers on Chinese historical research. Students need to submit the translation of the English paper into Japanese before the class.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業はオンラインによって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 中国近世史の諸問題Ⅱー(1)及び行政制度の基礎知識

3. 中国近世史の諸問題Ⅱー(2)及び行政制度の基礎知識

4. 中国近世史の諸問題Ⅱー(3)及び商業史の基礎知識

5. 中国近世史の諸問題Ⅱー(4)及び商業史の基礎知識

6. 中国近世史の諸問題Ⅱー(5)及び法律制度の基礎知識

7. 中国近世史の諸問題Ⅱー(6)及び行政区画の基礎知識

8. 中国近世史の諸問題Ⅱー(7)及び行政区画の基礎知識

9. 中国近世史の諸問題Ⅱー(8)及び行政区画の基礎知識

10. 中国近世史の諸問題Ⅱー(9)及び科举制度の基礎知識

11. 中国近世史の諸問題Ⅱー(10)及び科举制度の基礎知識

12. 中国近世史の諸問題Ⅱー(11)及び科举制度の基礎知識

13. 中国近世史の諸問題Ⅱー(12)及び社会構造と科举制度に関する討論

14. 中国近世史の諸問題Ⅱー(13)及び経済構造と科举制度に関する討論

15. 中国近世史の諸問題Ⅱー(14)及びまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の発表時にレポートの提出を要求する。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、プリントを日本語訳し、また疑問点をまとめてくる必要があり、それを授業中に問う。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅲ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：岡 洋樹

コード：LM13404 科目ナンバリング：LGH-HIS606J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅲ】

1. 授業題目：清朝の外藩モンゴル統治の諸問題

2. Course Title (授業題目)：The Qing's rule over Mongolia

3. 授業の目的と概要：清朝（大清国）は、中国最後の王朝であるが、最盛期におけるその支配下にはユーラシア内陸部の広大な空間が含まれた。とくにモンゴル高原から新疆北部に分布するモンゴル系遊牧民諸集団は、清朝の拡大過程で重要な役割を果たした。そもそも清朝自体が満蒙の王族と漢人諸侯による太宗ホンタイジ推戴を画期として成立したのであり、モンゴルはその国家構造の不可分の一部を構成した。1644 年の入関により中国本土支配の開始により、モンゴルは支配エリートたる八旗と内地諸省とともに新の統治カテゴリーの一つとしての「外藩」を構成した。「外藩」体制は、清代を通じて維持され、その最終的な消滅は、1920～30 年代のことである。それゆえ、清の国家構造の特徴である「外藩」は、近代の東北アジア史の「焦点」の一つであった。本講義では、近代をも視野に含めつつ、清朝統治における外藩部分の制度的・社会的特徴を概観しつつ、アジアにおける前近代帝国統治の意味を考察する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The territory of the Qing dynasty, the last of Chinese dynasties, covered broad space of Inner Eurasian region where various nomadic peoples lived. Especially the Mongolian nomads played important role in the Qing's advancement. The Qing itself was established by Manchu-Mongolian noble princes and Chinese warlords when they enthroned Taicong Huntaiji in 1636 and the former Mongolian polities were comprised in its ruling structure. As the result of the Qing's advancement into China proper in 1644, Mongolian princes were incorporated in the administrative structure called "Wai fan". The Wai fan regime was maintained until the collapse of the Qing's rule in 1912 and finally disappeared in 1920-30s. Accordingly the collapse of Wai fan regime became a pivot of political turbulence of Modern Northeast Asia. In this lecture The historical context of the Qing's rule over Mongolia is discussed from the viewpoints of administrative system and social structure and furthermore the general nature of the rule of multicultural pre-modern empire.

5. 学習の到達目標：清朝の国家統治が、その内陸アジア部分においていかなる制度的特徴と、歴史的な脈を有するのかを学ぶことで、東北アジアの文化的多様性の歴史的淵源を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students are required to understand about the historical origin of the cultural diversity of modern Northeast Asia through investigating the Qing's ruling structure and its historical context of Inner Asian history.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

講義では、以下の論題について考察を行う。

1. 清朝のモンゴル統治カテゴリーとして「外藩」

清朝の国家構造は、皇帝とマンジュ諸王が率いる支配エリートとしての八旗、モンゴル諸王属下としての外藩、明の領域を継承した内地直省の三つの部分から構成されていた。ここでは、清の外藩の統治構造を制度的に概観する。

2. 外藩統治成立の歴史的経緯

清の統治カテゴリーとしての外藩は、17 世紀から 18 世紀にかけて漸次形成されたが、その統治要件の多くが北元期のモンゴルに由来するものであった。ここでは、清初から 17 世紀末までの満蒙関係を概観しつつ、北元期のモンゴル社会における統治のあり方が清の外藩へと取り込まれていく過程を検討する。

3. 清代モンゴルの社会構造

清の統治下におけるモンゴルの社会構造は、1950 年代末からモンゴル人民共和国の研究者によって、文書史料（档案）を用いて研究されてきた。その後モンゴル国や中国内モンゴルに残る膨大な文書史料が刊行され、当時モンゴルの社会構造が解明されつつある。ここでは、最新の研究成果を用いて、モンゴル遊牧民社会の特徴を論じる。

4. 「封禁政策」論の問題

清のモンゴル統治の特徴としてよく言及されるのが「封禁」と呼ばれる政策である。これは、内地直省と外藩の相互の人の往来を厳しく制限し、漢人とモンゴル人の分離統治をはかったとするものである。ここでは、近年の文書史料による研究成果を踏まえて、封禁政策の現実性について議論する。

5. 清朝のモンゴル統治の歴史的脈

清のモンゴル統治の歴史的な性格については、これまで様々な議論がなされてきた。ここでは、清の支配期のモンゴルを、モンゴル史の脈に位置付けるとともに、清朝国家の歴史的な性格にも言及したい。

8. 成績評価方法：

出席と学期末に課するレポートにより評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書は特に指定しない。参考文献は講義の中で適宜指示する。

1 0. 授業時間外学習：出席者は、毎回講師が指示する文献を読むことによって、講義に対する理解を深めること。

1 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

1 2. その他：なし

科目名：東洋近世史特論Ⅳ／ Early Modern History in Asia(Advanced Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：中村 篤志

コード：LM24205 科目ナンバリング：LGH-HIS607J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史特論Ⅳ】

1. 授業題目：内陸アジア史の諸問題

2. Course Title (授業題目)：Issues of Inner Asian History

3. 授業の目的と概要：本講義では、内陸アジア史における生業や民族の境界を越える広域的な人やモノの移動について学ぶ。まず古代から近現代までいくつかの最新研究を解説する。次に清代モンゴルの事例を詳しく取り上げ、その歴史的意義について解説する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides the widespread movement of people and goods transcending differences in livelihood and ethnicity in the history of Inner Asia.

First, the lecturer explains some of the latest research from ancient times to modern times. Next, explains the historical significance of the Mongols of the Qing dynasty in more detail.

5. 学習の到達目標：内陸アジア史上の事例を通じて、広域的な人やモノの移動の重要性、それを研究する手法について理解を深める。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students better understand the importance of the widespread movement of people and goods, and the methods used to study it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業は講義方式でおこなうが、単元毎の小テストとその振り返りによっては内容を変更する場合がある。

1. ガイダンス

2. 内陸アジアの気候、風土、現代遊牧民の暮らし

3. 初期遊牧帝国と「集落」

4-5. ウイグルからモンゴルへ：カラコルムの歴史的な位置

6-7. モンゴル帝国の「首都圏」と情報ネットワーク

8. 清朝統治下のモンゴル

9. 人の往来をめぐって

10-11. 駅舎を行き交う人、モノ、情報

12-14. 北京のモンゴル王公

15. まとめ、レポートに向けて

8. 成績評価方法：

単元毎の小テスト50%、期末レポート50%

9. 教科書および参考書：

教科書はない。資料はこちらで作成し配布する。

内陸アジア史の基礎知識については、以下を読んでおくことと良い。

林俊雄『スキタイと匈奴：遊牧の文明（興亡の世界史）』講談社、2007年

森安孝夫『シルクロードと唐帝国（興亡の世界史）』講談社、2008年

白石典之『モンゴル帝国誕生：チンギス・カンの都を掘る』講談社、2017年

宮脇淳子『モンゴルの歴史：遊牧民の誕生からモンゴル国まで』刀水書房、2002年（増補新版2018年）

10. 授業時間外学習：資料は事前にwebで配信するので、熟読してから授業に臨むこと。

また、小テストの回答は受講者全員で共有し、次の回に振り返りを行う。学生同士でお互いの回答を見て考えを深め、各自足りない部分を補うこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史学研究演習 I / History in Asia(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 金曜日 5 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM15502 科目ナンバリング：LGH-HIS608J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史研究演習 I】

1. 授業題目：『宋書』礼志の研究 I

2. Course Title (授業題目) : A study of SONGSHU LIZHI

3. 授業の目的と概要：中国南朝時代の同時代史料たる沈約『宋書』の礼志を読む。南朝史料に特有の語彙や語法を習得するほか、官僚制度や礼制など、史料読解に必須の事項についての理解を深める。受講者は、毎回読む部分についての訳注を作成し、課題として提出する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : By reading “Li Zhi” (礼志 : a chapter about ritual systems) in “Song Shu” (宋書 : History of Liu Song), students can deepen their understanding of historical documents of the Southern Dynasties, which differ from other classical Chinese documents terminologically and stylistically.

5. 学習の到達目標：独特の用語を含んで難解な南朝史料の訳注を作成できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : The purpose of this course is to help students translate historical documents of the Southern Dynasties into Japanese with notes.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

『宋書』巻 16 礼志三を読み、訳注作成作業を行う。

1、ガイダンス、『宋書』礼志とはどのような史料か

2、『宋書』礼志を読む (1) 西晋・武帝、孫呉平定の際の封禪の議論 (1)

3、『宋書』礼志を読む (2) 西晋・武帝、孫呉平定の際の封禪の議論 (2)

4、『宋書』礼志を読む (3) 西晋・武帝、孫呉平定の際の封禪の議論 (3)

5、『宋書』礼志を読む (4) 西晋・武帝、封禪を行わず

6、『宋書』礼志を読む (5) 劉宋期における封禪の議論

7、『宋書』礼志を読む (6) 劉宋・孝武帝、大明元年の封禪の議論 (1)

8、『宋書』礼志を読む (7) 劉宋・孝武帝、大明元年の封禪の議論 (2)

9、『宋書』礼志を読む (8) 劉宋・孝武帝、大明四年の封禪の議論 (1)

10、『宋書』礼志を読む (9) 劉宋・孝武帝、大明四年の封禪の議論 (2)

11、『宋書』礼志を読む (10) 劉宋・孝武帝、大明四年の封禪の議論 (3)

12、『宋書』礼志を読む (11) 劉宋・孝武帝、封禪を行わず

13、『宋書』礼志を読む (12) 曹魏の宗廟 (1)

14、『宋書』礼志を読む (13) 曹魏の宗廟 (2)

15、授業の総括

8. 成績評価方法：

毎回の授業で提出する課題によって評価する。

9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する

参考書：授業中に紹介する

10. 授業時間外学習：課題（漢文史料の訳注）を作成する。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: “○” Indicate the practical business

《実務・実践的授業/Practical business》

12. その他：なし

科目名：東洋史学研究演習Ⅱ／History in Asia(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：川合 安

コード：LM25502 科目ナンバリング：LGH-HIS609J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋古代中世史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：『宋書』礼志の研究Ⅱ
2. Course Title (授業題目)：A study of SONGSHU LIZHI
3. 授業の目的と概要：『宋書』礼志の研究Ⅰの作業を継続するほか、Ⅱにおいては特に南朝における上奏文の形式や、合意形成の方法についての理解を深めつつ、当時の政治、制度、社会の実態究明を行えるようになることを目指す。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：By reading “Li Zhi” (礼志：a chapter about ritual systems) in “Song Shu” (宋書：History of Liu Song), students can deepen their understanding of historical documents of the Southern Dynasties, which differ from other classical Chinese documents terminologically and stylistically.
5. 学習の到達目標：訳注作成能力を向上させ、学術論文作成の基礎を確立する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：The purpose of this course is to help students translate historical documents of the Southern Dynasties into Japanese with notes.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 - 1、ガイダンス
 - 2、『宋書』礼志を読む(1) 曹魏・文帝甄后の廟
 - 3、『宋書』礼志を読む(2) 曹魏の陵寢
 - 4、『宋書』礼志を読む(3) 孫呉・蜀漢の宗廟
 - 5、『宋書』礼志を読む(4) 西晋初期の宗廟
 - 6、『宋書』礼志を読む(5) 西晋の宗廟の変遷
 - 7、『宋書』礼志を読む(6) 東晋の宗廟(1)
 - 8、『宋書』礼志を読む(7) 東晋の宗廟(2)
 - 9、『宋書』礼志を読む(8) 東晋の宗廟(3)
 - 10、『宋書』礼志を読む(9) 劉宋の宗廟
 - 11、『宋書』礼志を読む(10) 東晋、太興三年の宗廟祭祀の議論
 - 12、『宋書』礼志を読む(11) 東晋、永和二年の宗廟祭祀の議論(1)
 - 13、『宋書』礼志を読む(12) 東晋、永和二年の宗廟祭祀の議論(2)
 - 14、『宋書』礼志を読む(13) 東晋、永和二年の宗廟祭祀の議論(3)
 - 15、授業の総括
8. 成績評価方法：

毎回の授業で提出する課題によって評価する。
9. 教科書および参考書：

教科書：資料を配布する
参考書：授業で紹介する
10. 授業時間外学習：課題(漢文史料の訳注)を作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
『宋書』礼志の研究Ⅰとの連続履修が望ましい。

科目名：東洋史学研究演習Ⅲ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 5講時

セメスター：1学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM13503 科目ナンバリング：LGH-HIS610J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史研究演習Ⅰ】

1. 授業題目：明清官僚制度研究Ⅰ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, Students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

5. 学習の到達目標：中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当者を決めず、全員が毎回発表する（日本語訳でも訓読でもかまわない）。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and society at the time. All students will give a presentation in every class by Japanese.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。このクラスコードは【 】です。Classroomにアクセスし、クラスコードを入力してください。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー
2. 明清官僚制度研究Ⅰー(1)
3. 明清官僚制度研究Ⅰー(2)
4. 明清官僚制度研究Ⅰー(3)
5. 明清官僚制度研究Ⅰー(4)
6. 明清官僚制度研究Ⅰー(5)
7. 明清官僚制度研究Ⅰー(6)
8. 明清官僚制度研究Ⅰー(7)
9. 明清官僚制度研究Ⅰー(8)
10. 明清官僚制度研究Ⅰー(9)
11. 明清官僚制度研究Ⅰー(10)
12. 明清官僚制度研究Ⅰー(11)
13. 明清官僚制度研究Ⅰー(12)
14. 明清官僚制度研究Ⅰー(13)
15. 明清官僚制度研究Ⅰー(14)及びまとめ

8. 成績評価方法：

発表内容（平常点）。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

科目名：東洋史学研究演習Ⅳ／ History in Asia(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 5講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：大野 晃嗣

コード：LM23503 科目ナンバリング：LGH-HIS611J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：東洋近世史研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：明清官僚制度研究Ⅱ

2. Course Title (授業題目)：Studies of Bureaucracy in the Ming, Qing Dynasty

3. 授業の目的と概要：明清時代の漢文史料を精読することを通して、中国近世の政治制度、官僚制度に関する基礎知識を習得し、同時に自分で課題探究をするために必須となる文書読解の訓練を行う。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Students will read carefully the historical documents of the Ming Qing period and develop basic reading skills crucial to understanding historical texts used in academic research. Moreover, students will learn basic methods to study political institutions, bureaucracy and so on in Early Modern China.

5. 学習の到達目標：1学期に引き続き、中国明清時代の一次史料読解を通じて、政治制度、官僚制度研究に必須となる公文書の基本形式に慣れると同時に、当時の官僚制と社会について分析を加える。特に各回の担当を決めず、全員が毎回発表する(日本語訳でも訓読でもかまわない)。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：In the second semester, following the first semester, through the reading of the primary historical materials of Ming Qing China, students will accustom to the basic form of the official document which is essential for analyzing the bureaucracy and society at the time. All students will give a presentation in every class by Japanese.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

本授業はオンラインと対面のハイブリッドによって行う。

1. ガイダンスー史料の背景と工具書ー

2. 明清官僚制度研究Ⅱー(1)

3. 明清官僚制度研究Ⅱー(2)

4. 明清官僚制度研究Ⅱー(3)

5. 明清官僚制度研究Ⅱー(4)

6. 明清官僚制度研究Ⅱー(5)

7. 明清官僚制度研究Ⅱー(6)

8. 明清官僚制度研究Ⅱー(7)

9. 明清官僚制度研究Ⅱー(8)

10. 明清官僚制度研究Ⅱー(9)

11. 明清官僚制度研究Ⅱー(10)

12. 明清官僚制度研究Ⅱー(11)

13. 明清官僚制度研究Ⅱー(12)

14. 明清官僚制度研究Ⅱー(13)

15. 明清官僚制度研究Ⅱー(14)及びまとめ

8. 成績評価方法：

発表内容(平常点)。

9. 教科書および参考書：

プリント配布。参考文献は授業中に随時指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、テキストを日本語訳し、内容について調べて授業にのぞむ必要がある。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし